

# 最近の消費動向（月別概況・個別ヒアリング）

28年7～9月期の百貨店・スーパーの合計売上高は、既存店では全ての月で前年を下回った。百貨店では、衣料品不振の長期化に加え、4月に中国で関税引き上げと取締り強化が開始されて以降は、高額品の販売が伸び悩み、多くの店舗で外国人旅行者への売上が前年同月比で10～30%程のマイナスとなっている。スーパーでは、需要が伸びない中での新規出店が加速しており、競合の激化から既存店での売上を維持することが難しい状況となっている。

家電販売額は対前年同月比で概ね弱い動きが続いているが、新車販売台数は2ヶ月連続のプラスとなり、普通車を中心に回復の兆しを見せている。

実質賃金指数（全国、事業所規模5人以上）は、物価の低迷などにより8ヶ月連続プラスで推移しているが、消費の拡大にはつながっていない。

## 月別概況

**7月**：（平年差）平均気温+0.6℃、降水量-58.0%

7月は降水量が少なく、好天及び気温高が続いたため、肌着などの夏物衣料やパラソルやサンダルなどの服飾雑貨、アイスクリームなどが売上を伸ばした。土日も2日多く、家電や衣料品の売上を押し上げた。

百貨店では、7月1日にクリアランスが一斉にスタートし、婦人靴やハンドバッグ、紳士服などを中心に好調に推移したが、外国人旅行者への売上高減少が響き、売上は前年同月を下回った。

スーパーでは、タマネギやスイカなどが好調に推移し、当日が土曜日となった土用の丑の日商戦でウナギも売上を伸ばした。好天の影響で肌着や水着などの夏物衣料も売上を伸ばし、家電では洗濯機や冷蔵庫などが牽引したため、全店・既存店ともにプラスとなった。

**8月**：（平年差）平均気温+0.7℃、降水量+77.7%

8月は残暑が厳しく、雨が多く、休日も1日少なかったため客足を遠ざけた。特にお盆明け以降に展開された秋物商材の売上が振るわず、百貨店・スーパーともに前年同月を下回る結果となった。

百貨店では、お盆明け頃から秋物衣料への切り替えが本格化するが、残暑が厳しく出鼻をくじかれる形となった。客足も乏しく、大きなマイナスとなった。

スーパーでは、台風の影響で価格が高騰したタマネギやトマトは伸長した。残暑の影響で飲料やアイスなどは好調に推移したが、秋物衣料に加え、刺身、鮮魚などのナマモノは売上を落とし、前年を下回った。

**9月**：（平年差）平均気温+0.8℃、降水量+14.2%

9月も台風を含めて降雨日が多く、かつ全日最高気温が30℃を超える残暑となり、客足に大きく響いた。

百貨店では、8月から続く残暑で秋物衣料が動かず、衣料品が2ヶ月連続で2桁台のマイナスとなった。外国人旅行者への売上が大幅に減少する中、国内富裕層への売上も一服し、客単価が伸びず苦戦した。

スーパーにおいても、比較的単価の高い秋物衣料が大幅に苦戦したほか、白菜、鶏肉、練物といった鍋商材やおでん商材は伸び悩んだ。一方で、飲料、アイス、夏物寝具、エアコン、扇風機などが伸長した。

## 百貨店 A 社

9月の売上高の状況は、降雨日の増加が客足を遠ざけたことに加え、残暑の影響でニットやコート、ブーツ、ジャケットなど単価の高い秋物衣料の動きが鈍く、売上は前年を下回った。

**紳士服**：残暑や休日減の影響でジャケット、コート、セーター、スーツ、靴などは伸びを欠いた。バッグや革小物は比較的健闘したものの、売上は前年同月比でマイナスとなった。

**婦人服**：コート、セーター、ドレス（ワンピース含む）などの単価の高い秋物衣料が伸び悩み苦戦した。高価格帯の商品では財布・革小物やハンドバッグなどで外国人旅行者への売上減少の影響が見られた。

**子供服**：休日減や台風の影響で前年を下回った。ただし、外国人旅行者への売上は比較的堅調に推移しており、ベビー向け商品や、国内ブランドが好まれている。

**宝飾・時計**：時計は、外国人旅行者への売上が大幅に減少しており、株安や景気の先行き不安などを背景に、国内富裕層への売上においても減速の傾向が見られる。

**服飾雑貨**：降雨日数が増加した影響で、雨傘は好調に推移した。また、残暑の影響で秋物のブーツは伸び悩んだが、化粧品では夏物のUVケア・美白関連商材が伸長し、カテゴリー計で前年を上回った。

**食料品**：季節のサンマ、鮭、マツタケなどが、不漁や東北・北海道などの産地を台風が直撃した影響などで品薄になった生鮮食品が伸び悩み、カテゴリー計でも前年を下回った。

## 百貨店 B 社

9月の売上高は前年同月を下回る結果となった。時計等の高額品を中心に外国人旅行者への売上が減少したことに加えて、台風、降雨日数増、休日減などが重なり客足が遠のいた影響が大きい。

スーパ－C社

**紳士服**：若者向けのファッションや、ビジネス関連商材を中心に伸び悩んだ。催事に関しては好評を博したが、カテゴリー計では前年同月を下回った。

**婦人服**：高価格帯の商材では比較的健闘したが、残暑の影響が、若者向けのファッションなど中価格帯の商材を中心に顕著にみられ、秋物衣料は大幅に苦戦した。

**子供服**：休日減や台風などで客数が減少した影響が大きく、子供服ブランドの外国人旅行客への売上も一服したことから、売上は前年同月比でマイナスとなった。

**宝飾・時計**：時計を中心に、高価格帯の商品を扱う海外ブランドなどで外国人旅行客への売上が大幅に縮小しており、前年同月を下回った。

**服飾雑貨**：婦人靴やハンドバッグでは苦戦も見られたが、化粧品は外国人旅行客への売上も好調が続いており、国内顧客への売上も堅調であったことから、売上を牽引した。

**食料品**：シルバーウィークが3連休（前年は5連休）になった影響で、帰省みやげ需要の減少などから菓子は売上を落とした。パンやサンドイッチが好評な惣菜・ベーカリーに加えて生鮮食品は売上を伸ばしたが、カテゴリー計ではマイナスとなった。

スーパーC社の9月の売上高は前年同月を下回る結果となった。天候不順の影響で衣料や住居関連を中心に客数が減少した影響が大きい。

**衣料品**：9月は例年なら秋冬物の肌着が売れ始める時期だが、残暑の影響で伸び悩んだ。紳士婦人ともに単価の高い秋物衣料が苦戦したことで前年同月を下回った。一方で、スポーツシューズは売上を伸ばしており、五輪効果があったものと思われる。

**食料品**：農産畜産では月前半まで相場高が続いていたタマネギや販促を強化した梨などが売上を牽引した。反面、残暑の影響で鍋用の白菜や鶏肉、すき焼き用牛肉などは不調となった。水産では、高気温からウナギは好調となったが、水揚げ不振となったサンマは伸びを欠いた。他の部門でも気温の影響が大きく、飲料、アイスなどが伸長し、カップ麺や練物は伸びなかった。

**住居関連**：残暑の影響で扇風機やエアコン、水筒、殺虫剤、夏物寝具、タオルなどが軒並み伸長し、毛布や羽毛布団、防虫剤の売上は大幅に減少した。自転車や扇風機などで高単価品に動きがあったため、客単価は前年を上回ったが、それ以上に客数の減少が大きく、カテゴリー計では前年を下回った。（中井章太）

### 大阪府の消費に関する経済指標

（単位：百万円、台、%）

		28年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店計	販売額 全店ベース	140,058	143,256	139,379	161,352	136,468	131,771
	(前年同月比、全店ベース)	▲ 1.5	▲ 2.2	▲ 2.0	0.5	▲ 4.7	▲ 4.6
	(前年同月比、既存店ベース)	▲ 1.9	▲ 4.0	▲ 3.9	▲ 0.9	▲ 6.1	▲ 5.9
うち百貨店	販売額	69,350	70,257	68,470	86,272	63,539	63,847
	(前年同月比、全店ベース)	▲ 3.6	▲ 5.1	▲ 5.8	▲ 1.6	▲ 7.1	▲ 7.6
	(前年同月比、既存店ベース)	▲ 3.6	▲ 5.1	▲ 5.8	▲ 1.6	▲ 7.1	▲ 7.6
うちスーパー	販売額	70,708	72,999	70,908	75,080	72,929	67,923
	(前年同月比、全店ベース)	3.7	0.8	1.9	3.1	▲ 2.5	▲ 1.6
	(前年同月比、既存店ベース)	▲ 0.1	▲ 2.8	▲ 1.9	0.1	▲ 5.2	▲ 4.2
コンビニエンスストア 販売額及び店舗数増減 (近畿)	販売額 全店ベース	137,025	141,421	139,916	154,672	152,728	141,941
	(前年同月比、全店販売額)	5.9	3.3	4.4	5.1	3.9	5.3
	店舗数(前年同月比)	4.0	4.2	4.2	3.9	3.9	4.2
乗用車新車販売	台数	14,469	15,016	17,808	17,668	15,186	21,363
	(前年同月比)	5.6	3.8	▲ 5.1	▲ 5.0	4.8	4.8
家電販売 (近畿)	(前年同月比)	▲ 1.4	▲ 5.5	2.6	6.8	▲ 17.0	0.8

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」。  
 【コンビニエンスストア販売額】経済産業省「商業動向統計」。  
 【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。  
 【家電販売額】近畿経済産業局「近畿経済の動向」。